指導農業士・農業士による将来の農業の担い手育成
～指導農業士・農業士釧路地区連絡会議と高校との連携活動～

広域　担い手

◇　活動のねらい

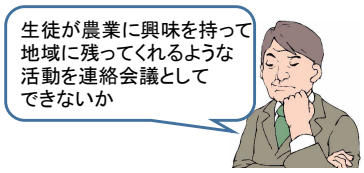
地域の高校の行事に北海道指導農業士･農業士釧路地区連絡会議（以下『連絡会議』）会員が参画することにより、農家生活や農業の魅力を直に伝え、将来の農業の担い手確保につなげる。また、指導農業士･農業士の新たな活動の展開を目指す。

１　活動の経過

表１　標茶高校との連携活動に向けた協議の経過

H29年12月	学校との協議	連絡会議と学校との連携の可能性について
H30年２月	学校との協議	校内実績発表の審査員の派遣の可能性について
		学校側より北海道農業教育研究大会の講師依頼
H30年３月	連絡会議役員会	連絡会議として高校との連携事業の参画を決定
H30年７月	研修会講師派遣	北海道農業研究大会にて指導農業士が講演
H30年８月	学校との協議	進路座談会･校内実績発表会への審査員の派遣について

H29年、アグリミーティング（釧路管内青年農業者会議）で標茶高校生が発表したことから、『連絡会議でも高校との連携事業を行いたい』という連絡会議会長の発案を元に、高校側と協議を重ねた。



＜標茶高校＞
釧路管内で唯一農場を持つ高校。
H12年に酪農科や農業機械科を廃し、総合学科となり、文化、環境、酪農・食品の３系列を持つ。
酪農・食品系列の生徒は、乳牛管理や農畜産物加工のプロジェクトに取り組む。

２　活動の成果

H30年より連携活動を開始。

進路座談会では、地域農業と農業の魅力発信と就農・就職のアドバイス。

実績発表会の審査員として、農業技術と課題解決手法を指導。

研修会では、高校と連絡会議の相互理解と新たな連携活動の構築がされた。

表２　標茶高校との連携事業の内容

年度	行事名	内容
H30	北海道農業教育研究大会	講演（指導農業士）
	進路座談会	講演（指導農業士）
	校内実績発表会	審査員（指導農業士･農業士）
	東北海道地区農業クラブ顧問会議	講演（指導農業士）
R1	連絡会議春期研修会	校内視察･教諭との意見交換
	進路座談会	講演（指導農業士）
	校内実績発表会	審査員（指導農業士･農業士）
R2	プロジェクト活動に向けた懇談会※	高校生のプロジェクトの計画についてアドバイス
	プロジェクト試作品へのアドバイス	試食会およびアンケート協力
	進路座談会	講演（指導農業士）
	校内実績発表会※	審査員（指導農業士･農業士）
	高校教諭との研修会（2月予定）	農家生活について情報提供

※コロナ感染拡大により中止

R２年度より、プロジェクト活動課題設定へのアドバイスや高校教諭との研修会など新たな取り組みも企画。

北海道農業教育研究大会で
連絡会議会長が『農業と農村の
未来を担う人作り』と題し講演

進路座談会農業部門で
地域農業や農業の魅力発信、
就農・就職のアドバイス

プロジェクト活動で作った
鹿肉や乳の加工品を試食し
アンケートに協力

高校のプロジェクトや進路指導に
ついて教諭と意見交換

＜連携事業についての感想＞

生徒（進路座談会）	高校教諭	連絡会議会員
酪農を全く知らないが、農家さんのお話を聞いて酪農に興味が出た	地域と一体感を感じた。プロジェクトを校内で完結せずに地域と連携していけると実感できた。	指導農業士として高校生に関わることは大切なこと。高校生とのパイプは大切にすべき。
将来、家の酪農を継ぎ規模拡大したい。どのように規模拡大するのか、苦労など分かった	生徒だけではなく、農業を知らない若手教員の育成についても連携をしたい	指導農業士は経験のある人が認定されてる。その経験を聞いた生徒が農業の道に進んでくれたらと思っている。

3　今後の対応

次年度以降も高校・連絡会議間で調整しつつ連携事業を継続する。また、高校側から要望のあるプロジェクト課題設定時の助言・指導や現地対応、教諭への農業理解の推進のための研修会など新たな取り組みについても実施方法を検討し、実現に向けて活動を行う。

継続した連携活動を進めていけるような仕組みづくりを目指す。